

世界に平和を・戦争の基地はいらない

羽村平和委員会発・横田基地ミニ情報 2016.6.5 No. 264 連絡先 042-555-1911



「G7 伊勢志摩サミット」オバマ大統領や随行員の移動 米国は専用機

今回のサミットでは専用機（大型ジェット機）が発着する中部国際空港と、会場となる三重県志摩市が約 30km 離れており、空港から会場までの移動には日本側が用意した自衛隊のヘリコプターが使われました。が、米国は大統領専用ヘリコプターと MV-22 オスプレイを運用しました。ヘリについては大型輸送機を使って専用機を本国から運んできました。専用車も運んできたそう。

横田基地では、C-17 大型輸送機等が深夜早朝に激しい離着陸。まさに植民地的運用です。

↓伊勢志摩サミット関連 運用時間帯外(22:00~6:00)の離着陸記録 (運用時間帯外の離着陸のみ)

5月16日	5:00頃	C-17	↓	5月22日	2:05	C-17	↓	5月26日	22:58	C-17	↓
5月18日	5:30頃	C-17	↓		2:20	C-17	↓		23:05	C-17	↓
5月19日	4:30頃	C-17	↓		3:47	C-17	↓		23:07	C-17	↑
	22:37	KC-135	↓	5月23日	4:54	KC-135	↑	5月27日	2:21	C-17	↑
5月20日	0:12	C-17	↑	5月25日	0:58	C-17	↑		22:44	C-17	↓
	0:59	C-17	↑	5月26日	1:10	B747	↑		23:28	C-32	↓
	4:43	C-17	↓		2:14	C-17	↑	5月28日	0:50	C-17	↑
	5:17	C-17	↓		2:39	C-17	↓		0:54	C-17	↑
5月21日	2:00	C-17	↓		4:32	C-17	↑	5月29日	2:34	C-17	↑
	4:36	C-17	↓		5:52	C-17	↑	5月30日	23:48	C-17	↑

CV22オスプレイを横田基地に配備するな！ 横田撤去の会などが訴え



6月19日(日)は横田基地の撤去を求める座り込み行動 沖縄では県民大会

- 6月19日(日) 第87回 フレンドシップパーク
- 7月17日(日) 第88回 フレンドシップパーク
- 8月21日(日) 第89回 フレンドシップパーク
- 9月17日(土) 第90回① 福生公園
- 9月18日(日) 第90回② 福生公園

*第90回は、横田基地日米友好祭が 9月17日・18日と開催されるので2日間。会場、変更です

*5月の座り込みは104人が参加。写真はお茶の接待をする福生の新婦人と都本部の新婦人の皆さん。



横田に配備されるC130Jスーパーハーキュリーズが米で製造開始 (No.264 裏面)

星条旗新聞は2015年1月20日付に、「横田基地所属のC-130Hハーキュリーズは、2017年に最新型のC-130Jスーパーハーキュリーズに移行する予定」と掲載しました。このC-130Jが米国のロッキード・マーティン社で製造が開始され、横田基地は2016年第4四半期末までに最初のC-130Jを受けとる予定である、と米空軍横田基地HPに掲載されました。先の星条旗新聞は、C-130Jはプロペラが6枚ありパワーは強力で荷物もたくさん積める、2台のC-130JでC-130H 3台の仕事ができる、乗組員も大幅に節約できる、と書いてありました。横田基地は強化されます。



「軍隊の本質は変わらない」緊急集会参加の写真家 嬉野京子さん語たる

元米海兵隊員による女性遺体遺棄事件を受け、「オール沖縄会議」は25日、嘉手納基地前で「元米兵による残虐な蛮行糾弾！犠牲者を追悼し米軍の撤退を求める緊急県民集会」を開き、4000人が参加しました。琉球新報は集会に参加した報道写真家の嬉野京子さんが「今回の事件で、人を殺す訓練をしている軍隊の本質は当時と何も変わっていないことがはっきりした。米軍は米国に引き揚げるべきだ」と話したことを報道しています。嬉野さんは



1965年、米統治下の沖縄で米軍車両が少女をひき殺した現場を撮影して県外で公開しました。(上写真は大きな反響を呼んだ。)

海兵隊撤退を初要求 女性遺棄事件で 沖縄県議会が抗議決議

沖縄県議会は26日、臨時会を開き、元海兵隊員の米軍属による女性遺体遺棄事件への厳重な抗議とともに、米軍普天間基地の閉鎖・撤去と「県内移設」の断念、在沖米海兵隊の撤退などを求める抗議決議と意見書を、自民党会派などが退席した上、全会一致で可決しました。

在沖米海兵隊の撤退を求めるのは県議会として初めてです。日米地位協定の抜本改定や、米軍人・軍属などによる凶悪事件の発生時に、訓練と民間地域への立ち入り、米軍車両の進入を一定期間禁止する措置を講じることなども求めました。与党会派と中立会派が提出。宛先は抗議決議が駐日米国大使、在日米軍司令官など、意見書は首相、防衛相など。

米知識人「沖縄の全基地撤去を」 チョムスキー氏ら80人が声明

米国のノーム・チョムスキー氏（マサチューセッツ工科大学）やピーター・カズニック氏（アメリカン大学）ら米国の平和活動家や大学教授ら約80人は5月26日、元海兵隊員の米軍属による女性遺体遺棄事件を受け、沖縄からすべての米軍基地を撤去するよう求めるとともに、オバマ政権に翁長雄志知事ら県側との対話を促す声明を発表しました。（沖縄タイムス 5月29日配信）

【米識者ら声明全文】 私たちは最近起きた元米海兵隊員による沖縄の若い女性に対する事件に戦慄（せんりつ）を覚える。性犯罪や最近の事件を含め、米軍関係者による沖縄県民に対する犯罪、米軍基地の存在が引き起こす環境破壊は70年以上にわたって続いてきた。米国は第2次大戦の終結以来、沖縄に駐留し続け、現在も33の軍事施設と約2万8千人が残っている。

私たちの多くは沖縄を訪れたことがあり、平和を愛する県民が美しい島からの米軍基地の完全撤退を要求していることを支持する。さらに私たちはオバマ政権がこうした犯罪に対処し、米軍地を閉鎖するために沖縄県の翁長（雄志）知事と話し合う場を持つよう強く促す。